

アトピー性皮膚炎の 症状と治療について

プログラム

1. 震災後に増えた子どもの疾患とその対策
—「宮城県小・中学生の健康アンケート調査」の結果より
東北メディカル・メガバンク機構 予防医学・疫学部門
教授 栗山 進一 医師
2. アトピー性皮膚炎の症状と治療について
～家庭でできることから始めましょう～

あなたのお子さんは
大丈夫？
セルフチェックして
みませんか。

東北大学大学院医学系研究科 皮膚科学分野
非常勤講師 小澤 麻紀 医師

講演会の中で、お子さんの皮膚に関するお悩みに、
医師がお答えします。



人物イラスト制作：橋本さと子

日時 2014年 4月26日(土) 10:00～11:30
(受付9:30～)

場所 岩沼市中央公民館・視聴覚室
(定員50名)

参加費無料

参加ご希望の方は、事前に下記事務局まで、お名前と人数
をお電話にてお知らせください。*事前のお申し込みがなくてもご参加い
ただけますが、会場の都合上、お断りする場合がございますことをご了承ください。

お問い合わせ

東北大学東北メディカル・メガバンク機構 地域子ども長期健康調査について

東北大学 東北メディカル・メガバンク機構は、東日本大震災後、子どもたちの健康で懸念されている、こころやからだの症状に関してアンケート調査を平成24年度から行っています。

平成24年度・平成25年度は岩沼市、亶理町、山元町の各教育委員会と公立小・中学校のご協力のもと、小学2・4・6年生と、中学2年生のお子さんを対象に、「宮城県小・中学生の健康アンケート調査」を実施いたしました。
アンケート調査にご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

アトピー性皮膚炎の症状に関して

平成25年度のアンケート結果より*1、2

最近12か月間にかゆみを伴う湿疹があった人の割合

小学校 2年生	4年生	6年生	中学校 2年生
26.4%	22.1%	18.4%	15.9%

〈参考〉平成20年の全国平均では16.6%(小学1年生)、10.7%(中学2年生)です。

出典:平成19~21年度厚生労働科学研究費補助金(免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業)分担研究報告書.
全国小児気管支喘息有症率調査に関する研究. 主任研究者・赤澤晃. 2010.

今回の調査で、アトピー性皮膚炎の症状があるお子さんが、小学校・中学校ともに全国平均に比べて多いことがわかりました。全国平均よりも多い結果となった原因については、現在詳細な分析を行い、究明しているところです。

この結果をうけて、このたび皮膚科医師による
講演会を開催する運びとなりました。
皆さま、ぜひご参加ください。

*1. 平成25年度は宮城県南部の公立の全小中学校にご協力いただき、アンケート調査を実施いたしました。12,742人に配布し4,074人の方からご返送いただき(回収率32%)、うち有効回答が得られた4,068人分のアンケートを対象に集計・解析を行いました。

*2. 有症率、重症度の国際間比較ができ、生活環境や治療による影響についてアレルギーに関する多くの疫学調査にも標準的に使用されているISAAC(アイザック)という指標を使用しました。